2021.9.20　第130号　　年金局・「隠退教師を支える運動」通信

主に導かれ、守られて93年

尾瀬　力

私が、キリスト者になったのは日本の敗戦の年1945年11月である。私は、当時の軍国主義宣伝と国家主義に煽られて『必勝の信念』のもとに戦争に参加し、海軍軍人になった。しかし、惨めな敗残兵になり、故郷の東京に帰ってきた時である。

当時の東京は、一面の焼け野原で、何処からでも中心街のビルが見渡せる状態だった。私は、正直、これからどう生きていくかさえわからない状態だった。しかし迷った末に不思議な主の導きがあり、教会にたどり着いた。当時敗戦のせいか全てが暗い雰囲気に包まれていたのに、そこには不思議な明るさと喜びがあり、優しさに満ちていた。私はそれに不思議に引きつけられ、毎日曜日教会に行く様になった。当時覚えた優れた先達の言葉にこんなものがあった。内村鑑三は「日に三度、自分をふり返っても何になるか 清められるも 清められざるも 只十字架の主を仰ぎ見るのみ。」それと、賀川豊彦の「波まかせ 海原まかせ 風まかせ 神にまかせて 心安けし」

尾瀬力先生

私の伝道者の晩年には開拓伝道に従事する様になった。その時『無から有を生みだす神』を、一つ一つできあがっていく事実を通して心からもう一度神を信じる様になった。その事が唯一の絶対の課題であった。良き隣人や助け人が必要な時には、いつも与えられた。七千万円余の教会建設の費用も私達には望外な物であったけれども、奇跡的に全て与えられた。全て感謝であった。

青年期に食料事情が悪い為胃腸が悪く、よく下痢をしていたので、口の悪い友人は「俺たちは下らないけれどお前はよく下る」など言われた事もある。それなのに、胃腸は治り、長生きさせていただいた。かつて軍国主義に煽られて、戦争中、海軍航空隊に勤務したのに、無事守られ帰ることができた。

今、私は93歳で余命はそれ程多くはない。自分は敗北者として死をむかえるのでなく、勝利の主にむかえられて、この世を終わりたいものである。

私の父は、ロシア文学に従事して「ロシア画観」など約30冊を著述した。ソ連の革命10周年記念には、米川正夫、秋田雨雀、小山内薫氏と共に、国賓として招かれた。それなのに日本が、15年戦争に入る

と、全く仕事ができなくなってしまった。その為私は、小学校を出て直ぐ働かざるをえなかった。しかし不思議な事に私は、中央大学、東京神学大学、それに米国のウエスレー神学大学と11年間も学ばせていただいた。その上、八幡西教会の開拓伝道も家内と共に働きながらではあったけれども、全て与えられた。今93歳、老後を家内と共に、主に在って楽しく過ごしている。

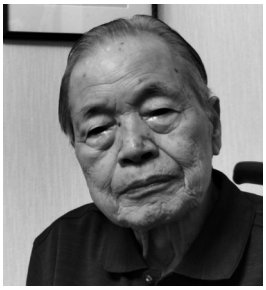
（おせ　ちから）

主の導きに感謝して

廣田昭信

今年一月で93歳になりました。旧制洲本中学生のとき、兄が戦地にいた私は家族の反対を押し切り中学での呼応にこたえたのはたった二人だけでしたが予科練に志願しました。私は台湾で飛行訓練に励みました。米軍の台湾への猛攻で飛行機と多くの戦友の命が失われ、本土決戦と内地で終戦を迎えました。

故郷淡路広石で召命を受け、昭和27年に神学校を卒業する際、母教会広石教会の牧師で米国に留学中の遠藤信治郎先生から是非淡路の伝道を手伝って欲しいと手紙を頂きました。先生が帰国されるまでの半年間は志筑教会と広石教会、帰国後は広石教会の主任担任教師となりました。広石には終戦時三家族の信徒が居り、戦後すぐ遠藤先生によって伝道が始められました。広石教会は広い農家を教区宣教師会の援助で購入してふたば保育園を経営し、園長を兼任しました。主日礼拝は夕拝でしたが村の青年がいつも四、五名出席して洗礼を受けるものもおりました。



廣田昭信先生

昭和39年和歌山県の紀南教会から招かれました。紀南教会は下里・天満・古座と三会堂が、牧師館は下里にあり、那智勝浦町天満から串本町和深まで50㎞が伝道圏でした。それぞれの会堂で朝・昼・夜と主日礼拝を守り、天満・太地・下里・串本で夜の定期集会があり、また天満保育園と下里のめぐみ幼児園があり、昼は園長の毎日でした。天満保育園の隣接農地を購入埋め立てて二階建ての礼拝堂を建て、また牧師館も改築しました。22年間には原子力発電所問題もあり、社会的役割も果たすよう努めました。

そして小高い丘の上にあり新会堂建築計画がある大阪のいずみシオン教会から招聘を受け、神学校の恩師佐治良三先生から紀南教会での建築の経験を生かして宜しく頼むと言われました。教会員が力を合わせ、遠方からも教会とわかる教会堂を建てることができました。保育園のような地域に密接した活動がないため、妻八榮子は神学校からの友人である野田市朗牧師（春風イチロー）の腹話術の門下生となり、腹話術で地域活動や伝道に励みました。私は腰痛が激しくなり、12年経った70歳を契機に隠退しました。

隠退後は頭から脚までいろいろな治療手術のため長短期の入院を繰り返し、五年前から室内の移動も車椅子です。妻は認知症が進み七年以上の介護施設入所を経て、昨年七月に88歳で天に召されました。十年程前から息子と同居し、孫や曾孫が来るのを楽しみに平和を祈る毎日です。教団年金に心から感謝しております。

（ひろた　あきのぶ）

「隠退教師を支える運動・100円献金」

隠退教師へ　更なる感謝を！

東京教区南支区推進員　浅見　英明

浅見英明さん

私の属する教会でお世話になった多くの隠退教師を覚える時に、♫昔、主イエスのまきたまいし、いとも小さき命の種…讃美歌412番で歌われるこの歌詞とメロディーが浮かび、何故か頭から離れません。

私の通う教会でも、隠退された歴代の牧師たちが正に「芽生え育ちて、地の果てまでその枝を張る樹とはなりぬ。」との歌詞の通りの宣教を教会員と近隣の地域に実現されてきました。

私も時々、教会学校の教師として、子供たちへの説教を担当することがありますが、長年、それも毎週の礼拝において牧師として「主のみ言」（命の種）をとりつがれる牧師のお勤め、羊たちを迷わない道に導かれたことは、いかに重い努めでしょうかと、その周到なご準備と信仰生活のリーダーとしての並々ならぬご活躍に感謝と共に敬意を示さざるを得ません。

さて、私の属する南支区の久ヶ原教会では、その重い努めを長年にわたり果たされた3名の隠退教師が現在でもそれぞれお元気に、私たちと共に礼拝に参列しておられます。

主任牧師として努められた桃井完二先生、そして担任牧師として、共にご奉仕された奥様の桃井綾子先生。50年以上前ですが、私どもの結婚祝いに贈られた『信・望・愛』の完二先生の書が今でも家の中心に掲示してあり、信仰生活の支えになっております。また、私の二人の子供を含め、家族ぐるみ大変お世話になりました。有難うございました、お疲れ様でございました。

定家修身先生には、私どもの教会が無牧であった時を含めて4年間にわたり、お世話になりました。主の御名のもとに感謝申し上げます。

また、この3名の隠退教師の他に、現在は大分で隠居生活をおくっておられる小野一郎先生には、私の学生時代を含め、30年以上お世話になりました。殊に先生には、クリスチャンとしての基本的な在り方を仕込んでいただきました。私はこのお世話になった先生方が、いつまでもお元気で共に礼拝が出来ることを喜びとしております。

このような感謝の実態を踏まえ、『隠退教師を支える運動』の趣旨に賛同し、この運動の価値ある実態報告とお祈りと献金による協力依頼について礼拝後の報告時に機会あるごとにPRさせていただいておりますが、この支える運動の前任の委員であった大坪福子姉妹が実行された熱意と活動に比べ、まだまだ私の行動が足りず、不十分だとしか言いようがございません。この運動の重要性を教会員の皆様と共有の認識として、この感謝の思いが届くように、更に運動の活性化を目指し、訴えかけてゆく覚悟でございます。

♫全てのものを、超えて進む、主イエスの国は永久に栄えん。隠退教師が残してくださった貴重な遺産と共に、この賛美の実現を見据えたいと思います。

（あさみ　ひであき／久ヶ原教会）

業務室より

― 年金を受けている方へ ―
年金送付のお知らせ

10 月の定例給付のご案内をします。

送金内容
①謝恩金受給者
2021 年度第3 期分給付
(2021 年10・11・12 月分)
②退職年金受給者
2021 年度第 2 期分給付
(2021 年 7・8・9 月分)
送　金　日 2021 年 10 月 8 日 (金)
期日に、ご指定の金融機関に入金されていない場合は、ご連絡ください。
次回送金 2021 年 12 月 10 日 (金)

連絡先・年金振込先の変更は、できる限り早めに、書状、Fax、e-mail の何れかで、年金局までお知らせください。

☆ 2021 年度「受給者名簿」を同封いたします。正確を期したつもりですが、誤りがありましたらお知らせください。この名簿は受給者の交わりに役立つように作成しているものです。それ以外の目的にはご利用なさいませんよう、扱いにはくれぐれもご留意ください。
住所欄の□は、2020 年度の現況届で住所等の記載を望まないと意思表示された方です。今年度 4 月以降に受給者となられた方は、原則、そのまま記載させていただきました。
名簿の送付が不要と申し出られた方には同封しておりませんので、お入り用の際にはご連絡ください。

☆ 7 月 9 日の定例給付日には、謝恩金、退職年金、合わせて 1 億 758 万円を 734 名の受給者にお送りいたしました。

☆ 6 月 24 日～ 25 日に開催予定の第 41 総会期第 6 回年金局理事会は、衰えることのないコロナ禍により書面とオンライン併用開催となり、20 名の理事によって、2020 年度の事業報告及び決算、謝恩日献金目標額 1 億 1 千万円を含む 2022 年度の財務計画案が承認されました。14 名の理事と 3 名の陪席者が画面上で久しぶりに会し、情報交換や状況共有ができたことは感謝でした。

☆本号では、93 歳となられた尾瀬力先生と廣田昭信先生にこれまでの歩みと近況を書いていただきました。お二人の先生を始めとする受給者のみなさま方がお元気でお過ごしのご様子を伺うことは、私共にとっても大きな喜びであり、励みとなります。

☆ 2 年に一度開催される教団総会が、昨年の一年延期に引き続き、今年も見送ることとなり、第 41 総会期が 4 年続くこととなります。一日も早い終息を祈りつつ、この時期を乗切る知恵を与えられていることに感謝したいものです。

☆今年の夏も、マスクの着用の中での猛暑の日々を過ごされたことでしょう。ワクチン接種後も感染の可能性があるデルタ株の出現など、不安はまだまだ続きそうです。また自然による災害も後を絶たず、被害を受けた方々には心からお見舞い申し上げます。みなさまの上に主の平安がありますように、そして何よりも健康が支えられますようにと、心からお祈りいたしております。

(村山めぐみ)

日本基督教団　年金局
「隠退教師を支える運動」推進委員会
〒 169-0051　東京都新宿区西早稲田 2-3-18
年金局　Tel：03(3202)2080
mail: nenkin@uccj.org
支える運動 Tel：03(3232)8005
mail: sasae100@uccj.org
Fax（両局兼用）：03(3202)2081